

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

分科会 1 議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和 6 年 5 月 14 日（火）11:00～12:00

2. 場 所：ウェブ形式開催

3. 出席者：

<担当幹事（発言順）>

大空 幸星 特定非営利活動法人あなたのいばしょ理事長

井澤 徹 特定非営利活動法人新公益連盟

今井 紀明 特定非営利活動法人新公益連盟（認定 NPO 法人 D × P 理事長）

<構成員>

社会福祉法人草むら、アイビスティ有限会社（はれの日サロン）、NPO 法人東京メンタルヘルス・スクエア、NPO 法人ホームスタート・ジャパン等、計 31 団体 33 名

<事務局>

（進行） 大西 連 内閣府孤独・孤立対策推進室参与

（司会） 荒川 裕美 内閣府孤独・孤立対策推進室参事官補佐

(議事次第)

1 開会

2 議題

(1) 経過説明

- ・ 令和 5 年度におけるつながりサポーター養成講座の試行実施に関する報告
- ・ 令和 6 年度におけるつながりサポーター養成講座の本格実施に向けた共有

(2) 意見交換

(3) その他

(議事録)

○司会 皆さま、おはようございます。時間になりましたので、これより「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」分科会 1 の第 4 回を始めます。本日は、お忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。本日司会を務める、事務局の、内閣府孤独・孤立対策推進室の荒川と申します。よろしくお願いします。

それでは早速、事務局より、本日のプログラムについて、資料 1 を用いて説明します。まず担当幹事より、経過説明として、資料 2、資料 3 により、本分科会 1 に関連する取り組みである、つながりサポーターに係る令和 5 年度の検討状況の報告および令和 6 年度以降の本格実施に向けた共有について、説明します。その後 11 時 15 分ごろより、意見交換に移ります。終了は 12 時ごろを予定しています。

それでは、担当幹事より、経過説明をお願いします。大空幹事、お願いします。

○大空氏 よろしくをお願いします。NPO 法人あなたのいばしょの大空です。私から、資料 2 と資料 3 について、説明します。

まず背景です。分科会 1 においては、声を上げやすい・声をかけやすい社会に向けた取り組みの在り方ということで、これまでにさまざまな検討をしました。基本的には、3 層に分けました。そもそも支援制度等を知らない層、制度は知っているけれども相談ができない層、そして、相談者になり得る層です。今回説明する、いわゆるつながりサポーターについては、③相談者になり得る層の中のうち、認知症サポーター養成事業という、既に実施をしている事業の仕組みを検討することによって、孤独・孤立の理解者を増やしていく活動をしていきます。

次のページです。令和 5 年度における取り組みですが、昨年度、2023 年 10 月に、養成カリキュラムの検討が始まり、その後は検討会を重ねて、今年の 2 月から、養成講座の試行実施をしました。

次のページです。有識者の検討会については、自治体の関係者や NPO、それから経団連などの幅広い方に参加いただいて、カリキュラムの内容について検討を進めてきました。

次をお願いします。つながりサポーター養成講座については、あくまで孤独・孤立に関する問題の普及や啓発を目的として、専門的な支援ではなく、もう少し手前の一般的な講座にしたいと考えています。ですから、支援を必要としている方に対する福祉的なニーズに応えるというよりも、日常でのつながりを補完する主体としてのつながりサポーターと認識いただければと思います。ですから、福祉に携わっていない人や一般的な専門知識を持たない方も、全般として対象にしていくことが重要です。

次をお願いします。6 番です。令和 5 年度、昨年度の試行実施については、日本工学院専門学校や、山形県鶴岡市をはじめ自治体、それから日本生命でも試行実施をして、全 5 回が終わりました。それぞれの試行実施場所において、事後にアンケートの実施をしました。その結果が次のページにあります。このアンケートは、自由記述も踏まえた設問で、日本工学院の場合のみ、高校生にとっても分かりやすかったか等の設問が入ります。また、日本生命の場合のみ、企業の研修等での活用の可能性がどのくらいあるのかも、設問として聞いています。

次のページです。全体の結果としては、養成講座のそもそもの目的である、孤独や孤立といった問題への理解については、「理解できた」、もしくは「興味関心が高まった」という回答の割合が高かったので、ある程度本来の目的の達成を見込める制度、仕組みなのではないかと推察されます。それから、つながりをつくっていく中において重要となる、他者へのサポート意欲についても、「そう思う」や「ややそう思う」と答えている割合が高かったです。また今回、養成講座の時間は 60 分が適切と考えられることも、このアンケートの結果から同時に見えてきました。

一方で、日本生命の参加者に伺った項目では、今回社内で講座を受講した方は、孤独や孤立の問題には既に関心があった方が多かったので、内容に少し物足りなさを感じたといった意見も頂戴しました。

続きまして、今年度にも本格実装をしていくに当たって、基本的には、先ほど申し上げたように、既に興味関心がある層については、次にステップアップをできる講座も整備をしていくことが重要です。ある種の上級者養成講座も検討していく必要があることも、論点の一つになります。

一方で、次のページにあります。この講座自体を広げていくことも重要です。残念ながら、孤独・孤立対策そのものが、まだ国民に広く浸透しているわけではないことも踏まえて、より視覚的な工夫や、そもそも養成講座の内容自体をもう少し分かりやすいものにしていくことも、いわゆるライト層への興味関心を高めるためには必要ではないかと考えています。

その他にも、本格実装に向けて、啓発効果があるグッズを受講者に配布するべきではないか、受講した人同士のつながりをつくる必要があるのではないかと、もしくは講座時間の調整も含めて、論点は多様にあります。

今年度の本格実施に向けたスケジュールについて、ご紹介します。今まさに分科会 1 を開催しています。本格実装に向けても、さらに検討会等の調整が入って、遅くとも 10 月中ぐらいには、養成講座の実施を開始します。20 団体程度を想定していますが、今年度中に本格実施を図ります。

ちょうど今月は孤独・孤立対策強化月間ですので、先週 1 回、メタバース空間ぷらっとば〜す上で、つながりサポーター養成講座を大西参与と私で実施しました。もう 1 回、Light Ring の石井さんもお越しいただいて、ぷらっとば〜す上での養成講座があります。こちらはどなたでも参加できます。本日ご参加いただいた方で、興味関心をお持ちの方は、ぜひご参加ください。簡単ですが、私からの報告は以上です。

○司会 ありがとうございます。それでは、これより意見交換を行います。大西参与、よろしくをお願いします。

○大西氏 皆さん、おはようございます。参与の大西連です。今日は午前中の時間のミーティングですが、皆さんは大丈夫ですか。大空さんからご説明いただきましたが、まさに分科会 1 で、どのような取り組みが必要かを皆さんと議論をして、形としてまとめたものの中から、つながりサポーター養成講座で、つながりサポーターをつくろうというところが、少しずつ具体化しています。分科会 1 の議論を頻繁に開けなかったこともあって、いつの間にこんなに進んだのかと思われ方もいるかもしれません。事前に事務局より資料が送付されましたが、この間に、講師用のテキスト、それから実際の講座のテキストも結構ボリュームがありますが、ご覧になった方もいるのではないかと思います。

ここからの時間は、つながりサポーター養成講座について、例えばテキストや、もしくは何らかの、先行的、試行的に行われものをご覧になられた方もいるかもしれません。それについて、率直なご意見や、この部分はいいけれども、この部分はもう少しこうしたほうがいいのかがあれば、ぜひ教えていただきたいのが、1 つ目の意見交換をしたいポイントです。

2 つ目は、大空さんから報告がありましたが、つながりサポーター養成講座の今後の展開に向けて、上級者向けを作ったほうがいいのか、それから 18 歳以下向けや、どのように展開をしていったらいいのか。自治体の皆さまも今日は多いと思いますが、特に地方で、どのようにやらより良いのかも含めたご意見を伺えたらというのが 2 点目です。

3 つ目は、今回つながりサポーター養成講座に特化してご意見を伺っていますが、それ以外にも分科会 1 でさまざまなご意見を伺いましたので、改めてこのようなことも考えてほしい、このようなことも取り組んだほうがよいということがあれば、時間が許す限り伺いたいです。以上 3 点です。時間が許す限りですが、前半の 2 点は必ずやりたいと思います。

1 点目で、今回のつながりサポーター養成講座のテキストや、この間のさまざまな試行的な取り組みを報告していただきましたが、それについて、率直なご意見や、感想のレベルでもいいので、もっとこうしたほうがよいという点があれば、伺います。どうでしょうか。手を挙げていただいてもいいですし、人数的に、かぶらなければ、マイクを外して、そのまましゃべってもらってもよいと思いますが、どなたか口火を切れますか。

A と B で分かれていると事前に伺っていますが、A の方がいないように見えます。分かりません、私の勘違いかもしれませんが、事務局はフォローをしてください。いきなり振ると困られるかもしれませんが、誰かが口火を切らないとなかなか話づらいと思います。もしよかったら、幹事団体である新公連の井澤さんに、この間の感触も含めて、少し共有いただいた後に、皆さんは、井澤さんの話を聞きながら、意見やコメントを考えて、手挙げをしていただけたらと思います。井澤さん、いかがですか。

○井澤氏 新公益連盟の井澤です。よろしくお願いします。せっかくこの画面を開いていますので、論点の 2 にも関わるかもしれませんが、試行を 5 団体で実施しました。先ほど大空さんからご紹介がありましたように、日本工学院という、高校を卒業したてぐらいの方への試行事業の中で得られた課題としましては、高校生は、このテキストで十分に対応できます。ただ、中学生以下に関しては、この下に、子ども向けテキスト作成の検討と書いてありますが、小中学生向けの子ども向けテキストを別途作成したほうがいいのかというご意見が多数を占めたことが 1 点です。

それから 2 点目は、大空さんから日本生命のお話がありましたが、その後の検討会などでも、各構成員の皆さまからご意見が寄せられています。まさにベースとなる、つながりサポーター養成講座の次のステップとして、例えば傾聴、聞く力に資するようなステップアップの講座や、次の新たなメニュー作りも想定をしてはどうかというご意見もありました。

さらに、事務局機能の設置や受講証明書の配布等を含む、養成講座の立て付けという 3 つ目のポツですが、冒頭に大空さんからお話がありましたように、この講座のベンチマークとしたのは認知症サポーター養成講座です。認知症サポーターに関しては、受講をすると、受講証明として、腕に着けるオレンジリングを皆さまにお届けしています。このようなツールの用意や、そもそもどのような事務局機能を設けた上で伝播をしていけばいいのかというあたりも、要検討事項です。ポツの 3 点を少し補足しました。以上です。

○大西氏 ありがとうございます。まさにその辺も、ぜひ皆さんのご意見を伺いたいポイントで

す。講座を受けたことがない、送ってもらった資料を見たけれども、それだけでは分かりづらいという方もいると思います。私が2点目の意見交換したい内容で申し上げた、今後の展開において、どのようなことを取り組んだらいいのかというご意見も、よかったら併せて教えてください。皆さん、遠慮なく発言してください。ご意見がある方はいますか。手挙げでも、直接口火を切っていただいても構いません。

なければ、私が独断と偏見で当てるという少し野蛮なことをしますが。今井さんがチャットで何か書いてくれました。今井さん、ぜひ声を上げて質問してください。

○今井氏 すみません、ありがとうございます。皆さん、これを進めていただいて、ありがとうございます。久しぶりの方もいると思いますが、聞きたかったのが、今後のスケジュールの質問でも大丈夫ですか。

○大西氏 大丈夫です。

○今井氏 ありがとうございます。私もそこまで把握をできているわけではないのですが、養成講座の内容で、実施団体はどのような団体ですか。先ほどの、学校などではないイメージですか。それを確認したいです。

○大西氏 これは事務局からにしますか。それとも内閣府からにしますか。

○松木氏 では私から。内閣府孤独・孤立対策推進室の参事官をしている松木です。今のところ対象は、自治体と、学校では、高校以上の方はこのテキストを使えるので高校です。それから企業もできればと思っています。さらに子ども向けは、高校生より年齢が低いところで、今後やるかどうかを検討する対象です。子ども向けと言っているイメージとしては、小学校高学年と中学校あたりです。今回のテキストは、高校以上であれば、誰でも使える形で作っています。対象者は高校以上で考えています。以上です。

○大西氏 すみません。松木さん、例えば NPO など支援をしている当事者向けに講座をやるのもあり得ますか。

○松木氏 ぜひそのようにしていきたいと思います。詳細の制度設計は、ちょうど画面に映っていますが、検討会を立ち上げて、そこで議論をして、これによると、秋に差し掛かるかもしれませんが、本格実施を夏以降で考えています。その辺りも、ぜひ検討会で議論をしたいと思います。

一番下に書いていますが、検討会と分科会1本体との関係についても、少し整理します。これまでは完全に別立てにしていたんですが、分科会1の中に設けたり、下部組織にするなど、関係性も整理した上で検討していきます。以上です。

○大西氏 ここで、ぜひこのような場所でもやったほうがいいなどのご意見をお願いします。

○大空氏 1点いいですか。大空です。松木さんに1点付け加えると、いわゆる類似講座に、ゲートキーパーという厚労省でやっているものがあります。ここの違いをどのように出していくのかを考えた時に、もっとより広く、一般に向けて対象とするのがつながりサポーターです。ですから、もちろん自治体や NPO の皆さんにも受けていただきたいものではありませんが、これまで福祉領域に参加することがなかなか難しかった、特に職域や企業などで、より広く浸透を図っていける講座にすることも一つです。そうすべきだということではなく、それが一つ、既存の講座との違いだと思います。これまでの検討会、もしくは分科会の議論の中でも、職域での浸透を図っていくことも、非常に重要な論点として挙がっていることを付け加えます。

○大西氏 ありがとうございます。今井さん、いかがですか。

○今井氏 ありがとうございます。あと2点あります。講座で使うテキストが、今回の資料の19枚目以降のような感じなのかというのが1つです。2点目で、先ほどの大空さんの、いろいろな企業に勧めていくというところですが、孤独・孤立プラットフォームに所属している NPO などは、企業とのいろいろなつながりがあります。内閣府の孤独・孤立だけで動いて、企業に向けて広げていくのか、それとも私たちができることがありますか。

○大西氏 前半ですが、19ページ以降はテキストで間違いありません。後半のところは、いろいろな意見として、ぜひここで議論をしたいです。松木さん、皆さんにこのようなところでやりたいとおっしゃって、開拓してもらうのは、内閣府的にも大歓迎なのではないかと思いますが、その辺りはいかがですか。

○松木氏 マスコミでも取り上げられて、かなり注目度の高い政策でもあり、まずは多くの人に受けてもらいたいのので、そのためであれば、いろいろな人のお力を借りて、広くやりたいです。ただ詳細については、検討会をきちんと立ち上げて、議論をしていくと思います。

○大西氏 ある程度情報を集約しつつ、協力しながら、広げてもらいたいところだと思いますが、一方で、国から何かお願いをすると、経団連や商工会などの大きなところの経由に、どうしてもなってしまいます。個別に、つながりがあるところとやりたいという声を、もしそのような機会を教えてもらえれば、調整をしながら進めていけたら、いいのかもしれませんが。ありがとうございます。今井さん、口火を切ってくれて、ありがとうございます。

○今井氏 とんでもないです。何かできることがあれば。例えば私たち民間の NPO など企業とのつながりは割と強いです。工数がかかるので、経済団体などをお願いしたほうが早いというのがあると思いますが、できる枠組み等があれば、検討していただけるとありがたいです。

○大西氏 これは重要な意見だと思いますので、ぜひよろしくお願いします。他にご意見、今の話に付け加える内容でも、素朴な疑問でも構いません。どなたか、もしあれば、手挙げやマイクのミュートを外して発言をしても大丈夫ですが、ありますか。

○温間氏 東京メンタルヘルス・スクエアの温間（ぬま）と申します。最初に聞きたかったのは、今のご質問で、ほぼ解決しました。テキストを拝見しましたが、とても分かりやすく、ぜひ皆さんに聞いていただきたい内容で、私も学びたい内容だと思いました。多くの方に聞いて、理解をしていただくことがとても重要で、例えば学校に行くのなら、全部の学校に行くのか、企業はどのぐらいの数までを目標にするのか、もし、ある程度の目標値があるようでしたら、お聞きしたいです。やみくもにやっても、成果はなかなか上がらないと思います。

また、少し個人的ですが、私たちの NPO はカウンセラーの団体で、SNS での相談などをしています。ぜひ聞きたいのですが、例えばそのような時は、無償でどんどん提供をしていく講座ですか、それとも有償でもやっていくものですか。もし、先ほどの目標値を持っているのなら、お聞きしたいです。そこをどのように考えているのかという 2 点を聞かせてください。

○大西氏 ありがとうございます。両方とも、それも含めて今後の議論ではないかと思います。現状で、もし内閣府的に設定をしているものがあれば、松木さんから説明してもらったほうがよいかと思いますが、松木さん、いかがですか。

○松木氏 少なくとも今年度実施する分については無償で行います。実施のための予算も、今年度分は補正予算で確保できています。予算積算上の一応の目安として、20 団体程度という規模感示した上で、予算を認めてもらっています。初年度はそれぐらいで実施しながら、人数は 20 団体×数十名というレベルですが、その程度の規模で、まずは広げていきます。

ただ、補正予算の要求の際に、職域をどうするか、高校をどうするかまではまだ決めていなかったもので、自治体の数だけで規模感を語ってしまったのですが、予算の範囲内で、実施のやり方をどうするかを、検討会で具体的に検討していきます。そこは柔軟に変えられますが、想定していた規模感としては、先ほど申し上げた数字です。

○大西氏 補足をすると、手探りで始めた部分も結構あって、それも含めて、この分科会や検討会で議論をしていきます。今年度については、取りあえず予算等を取れているものもありますが、来年度以降のことも含めて、見通しといいますか、5 年後、10 年後に、このようなことを目指すということも含めて、分科会 1 や検討会で議論をします。そして、政府の中でもいろいろな議論をして作り上げていきたいところなのかと思いますが、松木さん、その理解で合っていますか。ありがとうございます。温間さんですね。

○温間氏 はい。

○大西氏 大丈夫ですか。疑問は晴れましたか。

○温間氏 はい、ありがとうございます。日本の皆が孤独・孤立を認識して、お互いに支え合うには、恐らく現役世代の 3 分の 1 が聞くような規模感だと思います。仮に 20 団体×100 名だとしても、2,000 人で、規模感が全然違います。すみません、めったに出ずに、たまに来て、偉そうなことを言っていますが、このような分科会等で、どうやったらそれだけの大きな規模にできるのかを、これから話し合っていくと思います。小さな NPO ですが、私も何かできることがあったら一緒にやりたいと思って、お聞きしました。ありがとうございます。

○大西氏 ありがとうございます。サポーター養成講座自体は、実は講師用のテキストも作っていて、受講をした方が次は講師になれるようなことを目指しています。1 人の方が次の方とすることができる枠組みで考えていますので、全国的に普及をしていく際には、分科会 1 に参加している各団体の皆さんも、それぞれスピーカーになって、講師になって、いろいろな場所でこれをしていただくことを想定しています。温間さん、ありがとうございます。

○温間氏 ありがとうございます。

○大西氏 皆さま、率直なご意見でもいいですし、今の数値目標のことや、有償にするのか、無償にするのか等も含めて、まだ語られていない点も含めて、もしあれば、ぜひ積極的にお話してください。どなたか、ご意見がある方はいますか。もし挙がらないなら、私が独断と偏見で当ててしまおうかと思えます。では、独断と偏見で当てますが、先ほど仙台市の関さんの姿がちらりと見えましたが、今のお話を聞いていて、自治体の立場から、どのようなことを感じたのか、率直なご意見を伺えますか。

○関氏 分かりました。すみません、何点か簡単にお話しします。私も、孤独・孤立プラットフォーム作りで、テーマ設定などをどうしていくといいかを悩んでいる中で、皆さんがお話した、若者向け、高校生以下向けのコンテンツ、育成のテキストのお話もちょうど出ていました。若者層へのアプローチやタッチポイントをつくるのは、孤独・孤立でも、一つの重要なキーワードだと思います。ぜひそのような角度からも、子ども向けといえますか、若者向けのテキストもどんどん作っていただけるとありがたいです。

あと 2 点ですが、1 点は、特に、つながりサポーターの養成に当たる自治体に求められる役割です。これからいろいろな分科会などの中で検討していくと思いますが、イメージ的なものだけでも伝えていただけると大変ありがたいです。

それから、このようなサポーターを含め、私は社福士を持っていて、福祉の部門の仕事が長いのですが、福祉は名称独占的なところもあって、サポーターを養成した後に、その人たちが、このサポーターだから何ができるというところも福祉の課題だと思います。そのような箔（はく）的なところといえますか、そのような構成、立て付けはどうなっていくのかが漠然とした疑問でした。すみません、以上です。

○大西氏 関さん、ありがとうございます。自治体の役割も含めて、議論をできたらいいと思います。松木さん、現時点で何か考えられていますか。例えば、今年度の試行的な取り組みも、仙台市がやってくれば、20 個のうちの 1 個は決まりますが、松木さん、その辺りはいかがですか。

○松木氏 自治体の事情やニーズなどを踏まえながら、どのような方に対して講座を実施するかです。最初は、理想的には、本当に一般の方です。ボランティアもやったことがないけれども、少し関心がある人に受けてもらいたいです。そうは言っても、最初はハードルが高いから、この分野に既に関心を持っている NPO の方や民生委員の方にやりたいなど、いろいろなケースがあります。自治体ともいろいろなコミュニケーションをしながら、ここの自治体では、このような形で講座を実施してみようという、手探りの部分もありながらの今年度の実施になっていくと思います。私としては、できれば高校でやってみたいという自治体が出てくると、とてもありがたいのですが、その辺りは、やりやすい自治体と、そうではない自治体など、いろいろとあると思います。

仮にボランティアなどで既に関わっている方向けにやるといっても、先ほど大西参加がおっしゃったように、今度はそのような方が新しく講師になって、そこから広められることになるので、スタートとしては悪くないやり方だと思います。初年度ですので、いろいろなやり方を許容しながら、柔軟にやっていきたいと思っています。

○大西氏 いろいろなパターンをつくっていききたいということですね。この流れだと、仙台市には協力してもらうことになるかもしれません。

○関氏 ありがとうございます。余談になるかもしれませんが、まさに高校や中学校の子たちに啓発していく、ひいては、その子たちが、いずれ、このような社会課題を意識した取り組みを大人になって続けていけることが大事だと思います。私はたまたま進学校に行けましたが、高校生や中学生の子たちは、勉強の結果や成績を今は重視されてしまいます。このような立て付けを、

高校などのより若い世代に浸透させていくためには、社会奉仕的なところが評価されるような社会づくりも、省庁横断的に検討していく中でやっていくと浸透していくのかと、一つ思いました。所感です。ありがとうございました。

○大西氏 関さん、ありがとうございます。他の自治体の立場の方や、今日は企業の立場の方もいると伺っていますが、せっかくなので、コメントを頂ければと思います。手挙げ機能で、いませんか。いなかったら、私が指します。事務局からの連絡で、BではなくAを選択してくれた方がいるということです。はれの日サロンの中井様はAで出していただいています。急に振ってしまって、申し訳ありません。もしよければ、ご意見を頂けますか。

○中井氏 こんにちは。千葉県の松戸市で地域交流サロンをやっている、中井潮と申します。どうも初めまして。受講内容に関しては、非常に分かりやすくいいと思います。

私たちは、どちらかというと、地域的にも高齢化が続いていて、高齢者が非常に多くて、700名ぐらいの地域の方が日々参加しています。パートナーが亡くなった方が非常に多く、声かけや地域のつながりをつくる機会づくりがとても大事だと思います。これを取って、認識をしていたくのがファーストステップでは大事ですが、地域連携が最も大事だと思います。

この意識がある中で、さらに、私たちは一民間でやっていますので、自治体や社協、包括ともある程度はつながっていますが、お互いに連携しながら地域を活性化していくことが大命題だと思います。各部署、窓口がこの認識をして、地域で確立をしていくことが最終的で、そこでフォローをし合えることが最も大事だと思います。

私たちは一民間でやっているだけなので、毎月1万5,000件ぐらい、地域に声かけをしています。一民間だけの活動なので、どうしても半分は怪しく見られる部分もあります。けれども、もちろん孤独・孤立の表記もして、このような活動をしている浸透はしつつあります。この養成講座で、バッジなどで、このような活動をしているとしっかりとアウトプットをしながら、地域の人たちとつながっていくのがとても大事だと思います。取得した後の活動を、一番この分科会で発表をしていく部分だと思います。

○大西氏 中井さん、ありがとうございます。まさに取った後にどのような活動をやるのかも含めて議論をしていくこともそうですし、それから養成講座自体を多職種で、いろいろな分野の人の交流や顔が見える関係になる機会として、上手に活用をしていくことも、一つの方法だと思います。中井さん、ありがとうございます。

○中井氏 ありがとうございます。

○大西氏 声を出せない環境だということで、今チャットで、北区で活動している、一般社団法人SHOIN 小池さんから頂きました。現在は、3年間、北区子ども未来課との共同事業で、アウトリーチ支援事業を進めています。先日の養成講座に参加しました。ありがとうございます。

質問も頂いています。アウトリーチャーになる方への研修を実施していますが、つながりサポーターの研修内容をこの一つとして活用することも可能でしょうか。講師向けの講座はありますかという質問です。

最初の質問にお答えします。それぞれの団体で、つながりサポーター養成講座を研修として使いたいというご質問かと思いますが、この件はどうですか。内閣府、松木さん、いかがですか。

○松木氏 研修としても活用していただくのは、とてもありがたいです。ただ、実施をそもそものような捉え方をしていくか、それも含めて検討会で議論をしていくことだと思います。今年度と言わず、将来的な理想型の一つに、いろいろな団体に研修にも活用をしてもらえる姿が含まれていますので、私たちも歓迎をしたい方向性です。

○大西氏 そうですね。まだ試行中なので、今々はどうかというのは議論が必要ですが、長い目で考えた時には、企業やNPOも含めて、いろいろな研修や交流の機会の際に活用していただくと、広がりとしてはとても良いと思います。

それから、ご意見として頂いたのは、地域企業へも受講をしていただきたいと思います。そのとおりで、企業への働きかけはとても重要だと思います。

他にご意見を頂けたらと思います。幹事団体でも意見を言ってもらってもいいです。

○松木氏 大空さん、お願いします。

○大空氏 大空です。先ほど松木さんからあったお話のとおり、また大西さんもおっしゃったと

おり、広がる上では、将来的には、いわゆる自発的に分散をしていく形が理想です。ただ、その前提で、効果検証を当然やらなくてははいけません。

それから、一部論点で出ている受講をした後のつながりや、井澤さんもおっしゃった、受講者に何らかの、オレンジリングのようなグッズ等を配布する、もしくは、そもそもの事務局機能、バックオフィスのようなものが必要ではないか。そのような前提を先につくった上で、他の論点をつぶしていきます。

要は、資料2の中にあるさまざまな論点の中にも、恐らく優先順位があると思います。これは私見ですけれども、ステップアップをできる体制の整備などは、もう少し先の話です。それよりも共通項となるような、事務局機能、グッズ、情報交換、養成講座の立て付け、KPI から、今年度を含めて、スケジュール的には検討会で検討します。そして、その後でということで、論点の中にも、スケジュール感を持って、優先順位の振り分けをしなくてはいけないことを付け加えます。

○大西氏 ありがとうございます。実際に私たちの団体でやりたい、声をかけて、企業と一緒にやりたいと思ったら、今は、どうやってやったらいいのかがクエスチョンマークのところも多いと思います。まさに、体制や進め方、広げ方もとても重要な論点なので、今年度も議論をしていく必要があると思います。ありがとうございます。

それから、A で出している団体がまだいると事務局から頂きました。NPO 法人ホームスタート・ジャパンの山田さん、もししゃべれる環境でしたら、お願いします。

○山田氏 こんにちは、ありがとうございます。

○大西氏 こんにちは、よろしくお願いします。

○山田氏 拝聴していました。ありがとうございます。すみません、資料を一生懸命見て、理解を追い付けようとしていました。私たちも NPO 法人で、訪問型の子育て支援をしています。そして、地域の子育て経験者が、ホームスタートというプログラムの中で、養成講座を受けます。地域のおばちゃん、親戚の人のように、傾聴をして、気持ちを受け止めます。そして、孤立感を解消して、親自身のエンパワーメントをすることを目指しています。その部分に特化して、ずっとやっています。

今回の講座を拝見していて、どのような層の方が参加するのかというイメージがなかなか付きにくいところがありました。これを受けて、何がどのように変わるといいのか、どのようなイメージを持てばいいのかを、読み込む、理解をするのに、ずっとその点を考えていました。

つながりサポーターという名称を持っている人を増やすというより、一人一人の気付きや、自分の日々の中での、ちょっとした声かけなどが変わると、自分もうれしいし、きっと誰かのうれしいにつながるかもしれません。そのようなことにつながっていく講座になればいいという期待も込めて、どのようなプログラムになっているのかを見ていました。

私たちの講座も、自分自身を振り返り、自分自身が寂しいと思ったことや、逆にうれしいと思ったことは何か、マイナスの面だけではなく、プラスの部分にも着目することで、助けてあげるではない、自然な喜びを分かち合うようなアクションにつながると思います。ですので、そのような面も加わるといいと思います。

もう一点は、先ほどもどなたかがおっしゃっていましたが、民間の団体ならではの部分をどのように生かせるのかも、あってほしいと思います。民間団体の場合は、多くは、それぞれのフィールドがあります。私たちであれば子育て支援ですし、例えば高齢者支援など、いろいろな団体がプラットフォームにいると思います。逆に言ったら、それぞれの団体が、カチッと決まったプログラムというより、少しアレンジをする余白もあった上で広げられると、それぞれの団体を軸にしながら、自分たちがいつもやっているものに少しエクspansionをする中身にしていきます。イメージとしては、円がたくさん重なることで、それぞれの団体が少しずつ対象に意識を広げていくことで、今まで以上に、より多くの方々とのつながりがつくれたり、場合によっては団体同士の連携もできます。

民間ならではのもっと面白い視線で、プログラムの活用方法の議論をすれば、違う発想がもっと出てくると思います。ですので、がちがちではないやり方であったほうが、緩やかに広がっていく起爆剤になると思います。以上です。すみません、とりとめのない、抽象的なことで失礼し

ました。

○大西氏 ありがとうございます。まさに余白といいますか、アレンジをできるポイントがあるのはとても大事だと思います。ある企業が社内でプログラムをやる時に、ベースの講座はこのテキストを使ってやってもらうにしても、1時間の講座が終わった後に、30分はオリジナルで、私たちの企業だったら、どのような取り組みができるのか、例えばワークショップをやるなど、いろいろな展開があっていいと思います。それができるような形、またそのような方法があると、いろいろと示した上で、主体的にこの講座をやっていただけるようになると、とても面白いと思います。伺っていて、それも、伝え方、見せ方、広げ方で、重要な論点だと思います。山田さん、ありがとうございます。

これで、Aで登録いただいた方には、全員に振れたと思います。今の議論を聞いていて、これが気になったから確認したい、これをどうしても言いたい、また、全く別の論点で、これが抜けているから話したいでも構いません。もしあれば、手挙げでも、ミュートを解除して、音声をオンにして、お話ししても構いません。せっくなので、まだ発言をされていない方で、どなたか、お話ししたい方はいますか。なかなか挙げづらいですか。せっくなので、振ってしまおうかと思います。すみません、急に振られてびっくりするかもしれませんが、徳島県からお二方が参加しています。森さん、青木さん、どちらか発言をしてくださいますか。

○森氏 徳島県の森です。お世話になります。今後は、受講をした人が講師になれるように、具体的な詳細を詰めていくということですので、徳島県でも、可能であれば、このような形で県内に広めていきたいと考えています。また今後、情報を頂けましたら、よろしくお願いします。すみません、失礼します。

○大西氏 森さん、急に振って申し訳ありませんでした。ありがとうございます。徳島県も、おとしにプラットフォーム作りをしていただきましたので、そこが入り口といいますか、ハブになりながら、広げることも一緒に考えられたらと思いました。

○森氏 よろしくをお願いします。

○大西氏 ありがとうございます。まだ少し時間があるので、あとお1人、お2人ぐらいでもいいかもしれませんが、あれば、お話を伺います。いいですか。

では、今日は、新公連の井澤さんと、あなたのいばしょの大空さんは、どちらかというと、幹事として進行を務めていましたので、意見をあまり言えていないと思います。せっくなので、お2人からもコメントを頂いて、それで意見交換を締めようと思います。井澤さんからお願いします。

○井澤氏 改めまして、新公益連盟の井澤です。2点お話しします。1点は、先ほど山田さんから、のりしろ、余白のお話がありましたが、1回目の試行事業は5段階の展開をしたと申しましたが、ここでも少し余白のような部分を設けました。

と申しますのも、このつながりサポーターは、相談者になり得る層を広げていくことを目的にしています。ご相談を受けた後に地域のタッチポイントにつなげていくという、つなげ先のお話をするには、私たちではなくて、むしろ地域に根差した方に講師になっていただくのが適切です。ですので、地方自治体の皆さまや社協の皆さまに、その部分は講師を担っていただきます。一定のテンプレートは用意しつつも、独自のツールをそこに重ねていただいて、研修を当て付けました。そのようなことで、工夫の余地は十分にあると思いながら、山田さんのお話を伺ったのが1点です。

それから2点目は、先ほど来出ていますが、職域です。相談者になり得る層をどんと広げる上では、職域がやはり大きな鍵だと思います。ここは官民連携プラットフォームの妙で、全国版のプラットフォームにおいては、特別会員に経済3団体、賛助会員に、さまざまな企業が参画しています。この経済3団体の皆さまにどのようにご理解いただくのか。前回の検討会には、経団連の方も、SDGs、サステナビリティに関わるのは経営戦略そのものにもなりますので、そのような皆さまに構成員になっていただきつつ、ぜひ展開の議論を深めることができればと思います。以上です。

○大西氏 ありがとうございます。では大空さん、お願いします。

○大空氏 先ほど井澤さんがおっしゃったとおりで、いろいろな意見がありますが、あくまで孤

独・孤立のつながりサポーターは、日常的なつながりをつくっていく一つのきっかけです。福祉的なサポートは、地域を主体として活動をしている皆さんに担っていただきます。もちろん、つながりサポーターを受けた層の中から、このような社会課題に関心を持って、地域の活動にも参加したいと思う方がいればいいですが、それはあくまで結果論です。それをつながりサポーターの仕組みのアウトカムにはしてはいけないと思います。

孤独・孤立の問題と他の問題が違うのは、孤独・孤立は非常に普遍的な問題で、すなわち、自分もその問題の当事者になり得る可能性が極めて高いのです。孤独は人生のどこかのタイミングで必ず感じるといわれています。今日はつながりをつくる場所にフォーカスがされましたが、つながりサポーターの講座の中には、もちろん自分の孤独を知って、それにどのように対処をしていくのかという要素も当然含まれます。ですから、自分と他者の孤独・孤立に対処をできるようになるのが、恐らく養成講座の本質の一つだと思います。その意味でも、受けるだけでもいいです。その後の、活動をしてもらうことまで考える必要はなく、もっと広く広くということを考えるべきです。

それから、先ほど申し上げましたが、いろいろな既存の養成講座があり、自治体の職員も、たくさん受けていると思いますが、そのワン・オブ・ゼムになってはいけません。個人としては、特に職域にフォーカスをして、自治体にご協力いただく場合にも、地域の自治体内の企業なりに受けていただく援助を頂くぐらいのことをやってもいいと思います。これまでの施策との違いあたりをうまく強調しながら、ぜひ今後の議論を進めていければと思います。以上です。

○大西氏 ありがとうございます。ワン・オブ・ゼムにならないようにしないといけねえですね。

○大空氏 大西参与も何かお願いします。

○大西氏 私ですか。ワン・オブ・ゼムにならないに尽きます。よくある福祉的な講座にならないようにしなければいけないことが、孤独・孤立の一番の大きな特徴で、逆に孤独・孤立だから届く場所があると思います。

そこを常に意識しながら、そこに立ち返りながら、この立て付けでいいのか、このやり方でいいのか、孤独・孤立だから行ける場所はどこか。まさに職域もそうですし、それこそ理想は、小学校や中学校などで、全員の子どもがどこかで受けてくれて、自分なりにケアをする力をつくってくれたらいいと思います。そのように進めていけたらいいと思います。

D×Pの今井さんから、孤独・孤立の分科会も、孤立をせずに、このような意見交換をするのは、とてもいいことだと頂きました。官民連携プラットフォームは、各分科会も含めて、せっかくの場をまだ十分に生かし切れていないという課題感も私たちは持っています。このような形の意見交換の場をたくさんつくって、意見交換の場でもいいですし、予定が合わないなら、個別にご連絡いただいてもいいです。考えていることやご意見等をいろいろと寄せていただいて、一緒に作り上げていく政策、施策を考えていく必要があると思います。ですので、ぜひ必要に応じて、遠慮なく、お声かけを頂けたらと思います。

意見交換の時間も1分過ぎてしまいましたので、以上にして司会に戻します。荒川さん、戻します。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。それでは時間となりましたので、これにて終了します。ご参加いただきました会員の皆さま、担当幹事の皆さま、大西参与、本日はありがとうございました。

最後に、事務局から事務連絡です。この分科会1は、今後の取り組みの進捗（しんちよく）に応じ、開催する予定です。次回の開催につきましては、改めてご案内します。それでは、以上をもちまして、本日の分科会1の第4回を終了します。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

○大西氏 ありがとうございました。